

# 令和4年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター

第6号 令和4年7月12日発行

TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225

http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/



## 1. 気象経過

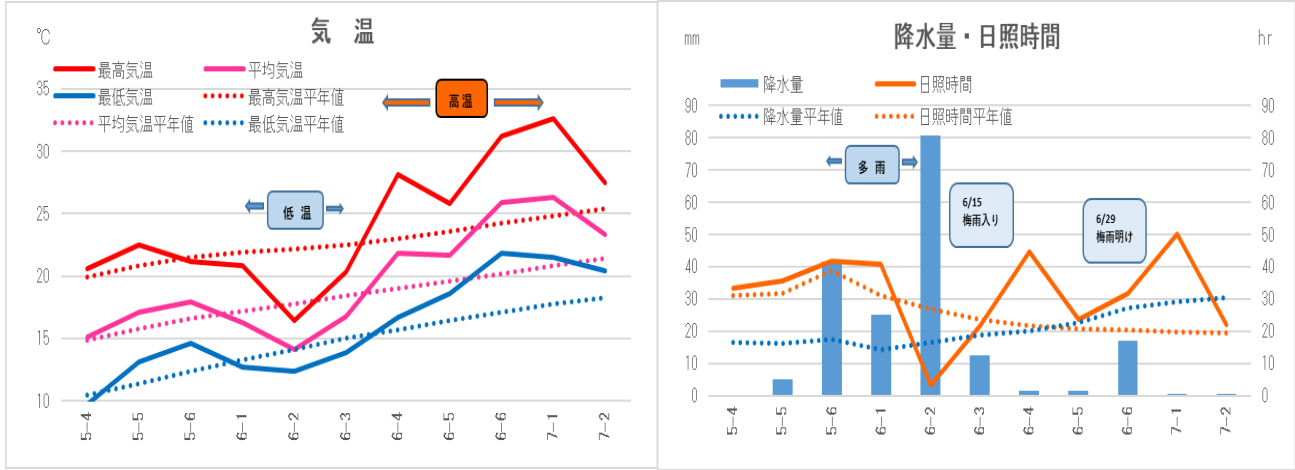


図1 田植後の半旬別気象経過（鹿島台アメダス）

表1 半旬別の気象経過（鹿島台アメダス）

期間	平均気温		最高気温		最低気温		降水量合計		日照時間合計	
	本年値	平年差	本年値	平年差	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
	(°C)	(°C)	(°C)	(°C)	(°C)	(°C)	(mm)	(%)	(時間)	(%)
6月第5半旬	21.7	2.1	25.8	2.2	18.6	2.2	1.5	7%	23.7	114%
6月第6半旬	25.9	5.7	31.2	7.0	21.8	4.7	17.0	63%	31.6	156%
7月第1半旬	26.3	5.5	32.6	7.8	21.5	3.7	0.5	2%	50.0	254%
7月第2半旬	23.3	1.9	27.5	2.1	20.4	2.1	0.5	2%	22.0	113%

※「宮城県河川流域情報システム」のデータでは、7/4に美里町中埠で14mmの降雨が観測されています。

<7月第1・第2>

気温：平均, 最高, 最低とも高い

日照時間：第1半旬は特に多い

降水量：かなり少ない※

5月中旬までに移植したほ場では、幼穂形成期（幼穂長1mm）に入っています。中干しを終了しましょう。

## 2. 管内生育調査ほの生育概況

表2 生育調査結果

調査地点	品種	区分	田植日	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	7月1日調査結果				7月11日調査結果				幼穂長 (mm)	
					草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)		
移植	涌谷 (小塚)	ひとめぼれ	本年値	5月6日	19.0	54.9	648	10.0	42.5	68.5	534	11.0	36.7	2.6
			前年比・差	2日早い	102%	104%	127%	0.0	101%	116%	113%	0.2	86%	▲1.1
			県平年比・差	7日早い	-	112%	114%	0.0	100%	113%	95%	0.2	91%	0.2
	田尻 (桜田高野)	ひとめぼれ	本年値	5月5日	15.9	60.1	563	10.1	44.7	73.5	509	11.1	38.1	3.5
			前年比・差	2日早い	99%	113%	98%	0.7	99%	120%	99%	1.0	86%	▲1.5
			平年比・差	6日早い	98%	124%	111%	0.0	98%	118%	124%	0.1	86%	2.0
	鹿島台 (広長)	ササニシキ	本年値	5月12日	15.4	53.9	567	10.0	42.3	69	522	11.3	38.7	1.1
			前年比・差	2日遅い	-	117%	91%	0.3	103%	118%	85%	0.6	99%	0.1
			県平年比・差	2日遅い	-	117%	91%	0.3	103%	118%	85%	0.6	99%	0.1
	鹿島台 (木間塚)	だて正夢	本年値	5月15日	16.1	62.7	557	10.0	48.8	82.3	506	11.0	42.7	0.8
			前年比・差	2日早い	98%	128%	142%	0.5	108%	130%	120%	0.3	89%	0.5
			平年比・差	平年と同じ	83%	123%	119%	0.2	105%	125%	107%	0.2	94%	0.4
南郷 (和多田沼)	金のいぶき	本年値	5月6日	16.1	55.6	615	10.4	45.2	74.6	667	11.5	40.3	0.6	
		前年比・差	4日遅い	98%	104%	109%	▲0.6	119%	116%	124%	▲0.3	110%	▲0.4	
		過去平年比・差	2日遅い	99%	105%	116%	▲0.4	109%	114%	135%	▲0.1	101%	▲0.2	
直播	小牛田 (荻埜)	ゆみあずさ (鉄コーティング湛水直播)	本年値	5月3日	17.4	46.1	428	8.5	40.4	63.9	602	10.3	38	0.8
			前年比・差	2日早い	104%	90%	71%	▲0.7	97%	98%	102%	0.2	93%	0.8

※平年値は過去5年間の平均値。過去平均は5年未満の平均値。

### 3. 今後の栽培管理

**出穂期 8月4日頃の予測（平年値：8月3日）**

#### (1) 生育ステージ

表3 生育ステージの予測値（7月12日現在）

移植日	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
5月1日	7/4~7/6	7/14~7/16	7/31~8/2
5月5日	7/6~7/8	7/16~7/18	8/2~8/5
5月10日	7/8~7/12	7/18~7/22	8/4~8/7
5月15日	7/11~7/15	7/21~7/25	8/7~8/10
5月20日	7/14~7/18	7/24~7/28	8/9~8/12

(参考) 表4 幼穂長と出穂前日数

幼穂長 (mm)	生育ステージ	外形	出穂前日数
1	幼穂形成期	止葉抽出	25
2			20
8~15			18
30	減数分裂期		15
80			12
120			10
195			6
205	出穂	穂ばらみ始め	4
220			2~1
220			0

※表3は主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉~3.5葉として予測。

平均気温を7月10日までは鹿島台アメダスの実測値、7月11日以降は平年値として生育ステージを予測した。

#### (2) 水管理

出穂前後は稲が水を必要とする時期です。出穂前までは**間断かん水**を基本とします。

☞幼穂形成期から減数分裂期にかけて日平均気温20℃以下、または日最低気温17℃以下が続く場合は、できる限りの**深水管理**を行いましょ。

※気象庁発表の2週間気温予報（7月11日更新）では、この期間の低温の予報はありませんが、今後も最新の予報に注意してください。

日付	1週目の予報(日別)							2週目の予報(5日間平均)				
	7/12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
東北太平洋側 (平均気温)	●					●	●					

高い  
 平年並

#### (3) 追肥

穂揃期の葉色を維持するため、標準的な追肥を行いましょ。

表4 幼穂形成期および減数分裂期の生育量の目安と追肥量

品種	幼穂形成期(幼穂長1~2mm)				減数分裂期(幼穂長3~12cm)			
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD値)	追肥量(標準) (窒素成分) (kg/10a)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD値)	追肥量 (窒素成分) (kg/10a)
ひとめぼれ	56~59	470~530	37~39	1.0	66~69	450~500	35~37	1.0
まなむすめ	65~70	580~600	35~37	2.0	-	500~550	36~38	-
ササニシキ	62~68	720~760	34~36	-	-	550~580	32~34	1.0~1.5
つや姫	70~75	550~580	35~37	2.0	-	-	-	-
だて正夢	64~70	390~460	40~42	-	76~82	380~420	37~39	2.0
金のいぶき	65~70	570~620	33~35	1.0	80~85	490~540	30~32	1.0
みやこがねもち	65~70	500~550	33~35	-	-	420~470	33~35	1.0

表5 穂肥窒素の施用時期と影響

	穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化
幼穂形成期	○	◎	○	
減数分裂期		○	◎	◎

## (4) 病害虫防除

(発生量等の情報は、県病害虫防除所発生予察第4号(6/24発表)及び病害虫発生速報(7/11発表)より)

### 1) いもち病 発生時期：平年並み(全般発生期7月第2半旬)、発生量：やや少

6月16日～7月7日間の鹿島台アメダスの観測では、いもち病の感染好適条件は出現しておらず、また、県北での本田での感染情報はありません。(出現状況はBLASTAMによる)

※感染好適条件：葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15～25℃、前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日。

ただし、7月11日から一週間程度は曇天の日が続く予報となっており、今後は感染好適条件が出現することが予想されます。ほ場を観察し、病斑を発見したら直ちに防除を行いましょう。



進行型病斑

停滞型病斑

褐点型病斑

### 2) 斑点米カメムシ類 発生時期：平年並(第1世代成虫発生盛期7月第4半旬) 発生量：やや少

#### 【発生源の管理】

水田周辺の牧草地等の草刈時期は7月中旬となっていますので、直ちに実施しましょう。

#### 【水田の管理】

水田畦畔の草刈りは水稻の出穂10日前までに行いましょう。

#### 【水田の薬剤防除】

- ① 基本の防除体系：1回目は穂揃期、2回目は穂揃期の7～10日後に実施しましょう。
- ② イヌホタルイ発生水田の場合：1回目の防除時期を早めましょう。1回目は出穂始～穂揃期に、2回目は穂揃期の7～10日後に実施しましょう。



アカスジカスミカメの成虫

### 3) コバネイナゴ 発生時期：平年並み(本田侵入盛期7月第3半旬)、発生量：平年並

県病害虫防除所の巡回調査結果では、発生量は過去6か年の平均より少ないものの、前年の発生がやや多かったことから、越冬密度は平年よりやや高いと推測されています。また、7月4日～7日の調査では広範囲で発生が確認されています。

前年の発生が多かったほ場や、現段階で発生が多く見られる水田では速やかに防除を実施しましょう。防除は、3齢(1.5cm程度)までに行ってください。

※山形県と秋田県では、要防除水準を100頭以上(20回振りすくい取り調査)としています。

農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日)